

所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第153号 令和2年4月10日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 TEL 381-1058

(主な内容)

・ 令和2年度江別市公立小中学校の教育活動
スタートにあたって

新しい学校教育の幕開け

江別市教育委員会教育長 月田 健二

令和2年度江別市公立小中学校の教育活動スタートにあたって

新しい学校教育の幕開け

江別市教育委員会教育長 月田 健二

新学習指導要領は、小学校が今年度(令和2年度)から、中学校は、来年度(令和3年度)から完全実施される。当然ながら、現在の小中学校に通う子どもたちが、大人になるころを見据え、どのような力や能力をつけることが個々人の幸せにつながるかを熟考し、改善されている。

学習指導要領改訂の考え方

■ 新しい時代に必要となる資質・能力

育成すべき資質・能力の三つの柱

- 学びに向かう力・人間性の涵養(学びを人生や社会に生かそうとする)
- 生きて働く知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の育成(未知の状況にも対応)

学校教育は、地域社会、グローバル化された世界とつながり、よりよい社会を創るという目標を共有し、さらに、連携・協働する必要がある。そのためには、「社会に開かれた教育課程」の実現、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現が必要である。

■ 何を学ぶか

- 新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し
 - ・ 小学校の外国語教育の教科化
 - ・ プログラミング教育の実施
 - ・ ICT教育の充実
 - ・ 各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

■ どのように学ぶか

- 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習過程の改善

文部科学省は、新学習指導要領の実施とともに、「GIGAスクール構想」により、さらに、学校教育を変革しようとしています。

GIGAスクール構想

■ GIGAスクール構想とは

- ・ 1人1台の端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストマッチを図り、教師や児童生徒の力を最大限に引き出す。
- ・ 江別市においても、令和元年度の補正予算で、校内LAN整備事業（案）を議会に提案し、賛同を得ており、今年度中に、市内小中学校25校の工事を実施できる計画になっている。

□ 「1人1台の端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージ

- ・ 江別市では当面、コンピュータ室のPCを使って、各学級の校内LANを活用する。
- ・ 例えば、検索サイトを用いて、授業テーマに応じて一人一人が様々な文章や動画を収集し、情報の真贋（しんがん）を判断し、整理する。
- ・ 一人一人が、文章作成ソフトを活用し、推敲を重ねて長文のレポートを作成する。
- ・ 理科の授業で、観察・実験の際に、動画撮影で、振り返りやよりきめ細かな分析ができる。
- ・ 社会の授業で、各自で収集した様々なデータや地図情報をPC上で重ね合わせて深く分析できる。
- ・ 算数・数学の授業では、関数や図形の変化の様子が可視化して、学びを深めることができる。
- ・ 英語では、発音練習に非常に役立つことができる。
- ・ 児童生徒個人に適した教材を配置できる。
- ・ 現在にはない授業スタイルを生むことができる。（外国との交流、遠距離授業の実施）

江別市教育研究所は、教育の理論や実践についての専門的研究を行い、教育の進展と充実を図ることを目的とし、昭和30年に設立され、今日に至っています。今年度も、「所員」を引き受けていただく6名の先生たちの協力を得ながら、「夏期セミナー」などの教職員研修の実施、児童生徒などの意識調査をまとめた「調査研究報告書」の発行、小学校外国語教育推進のための協議会の運営などに取り組みます。また「所報」を随時発行し情報提供に努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

